

第9回外洋加盟団体長会議 議事録

開催日時:2018年9月29日(土) 13:00~17:00

開催場所:クレイトンホテル(呉)

出席者:(理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務理事(東海会長)、平松隆、
菊池邦仁(いわき会長)、新田肇(三崎会長)、大島茂樹、作田智恵子(湘南事務局長)
(加盟団体)

津軽海峡副会長 木浪英喜、東京湾会長 足立利男、東京湾事務局長 望月規矩雄、
三崎事務局長 中里英一、湘南会長 平井昭光、近北会長 高橋利明、
内海会長 妹尾達樹、内海事務局長 猪上忠彦、内海事務局員 北中育子、
玄海会長 沼田浩行、玄海事務局 松田周平、南九州事務局長 市来孝夫、
南九州常任委員 石川国彦、西内海会長 山下文徳、西内海副会長 金井寿雄、
西内海事務局長 小山悟
(委員会)

外洋計測委員長 八木達郎、ORC委員長 吉田豊、
ルール委員会外洋小委員長 大村雅一
(事務局)

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫
JSAF事務局長次長 寺澤寿一

(順不同、敬称略) 合計 29名

開会に先駆けて、坂谷常務理事より、新体制において外洋常任委員会から2名の副会長が選出されたことの報告、続いて馬場副会長、中澤副会長からの挨拶があった。その後新人の理事の紹介があった。

I. 開会のあいさつ

新しく副会長に就任した馬場益弘副会長から開会の宣言があった。引き続き馬場副会長命により、坂谷常務理事が議長となり、議事録署名人に理事平松隆氏、外洋湘南会長平井昭光氏を指名し議事に入った。

II. 議事

1. 外洋艇推進グループ組織図の確認 (別紙参照)

議長から、新体制の組織図について説明があった。

2. ジャパンカップ・パールレースのその後の処理について: 坂谷常務理事

【ジャパンカップ】

定数に満たず中止になった。

今後、委員会の中でジャパンカップの今後について議論を行う予定。

【パールレース】

台風の影響により中止とした。

レースコースを逆走で、時間的にもドンピシャの台風だった。

大会本部で中止としたのは長い歴史の中で今回が初めて。

早い段階の決定だったので、関東艇で帰港できる艇は帰港できた。

3. オリピック応援フラッグリレーについて（実施状況と今後の進め方について）

2017年に始まったフラッグは現在4枚になり、以下各地を巡っている。

随時参加を募集している。

- ① 2018年5月28日沖縄—東海ヨットレースでスタートした応援フラッグは、ジョーカーに託された。その後、レースは中止になったが、7月26日のパールレース前夜祭＝残念会において前年の優勝艇 CRESCENT II に託されたとの報告があった。
- ② 九州ルートは、2018年8月25日現在長崎県まで引き継がれた、今後は玄海、大分、宮崎へ向かう予定。
- ③ 新潟、能登ルートは、2018年7月16日に富山まで達した。
- ④ 小笠原から始まったこのルートは、三崎を経由し現在東北ルートとなり、現在北海道まで達している。

4. 台風21号と北海道地震の被害状況と対応策について

被災された猪上内海事務局長から、被害状況の説明があった。あわせて、今後のことを考えるとこのような状況は増えていくので、お互いさまのことであり、自分のところのことは自分たちできちんと対処していくことが大事との意見があった。また、今後のことも考え JSAF において基金を作って対応してはどうかとの提案があった。

外洋湘南作田事務局長からも、東北の震災、その後の2,3被害に対しては支援も行ったが、度重なる被害に、また、台風12号の被害は湘南水域でも多々あり、今後は頻繁に起きていくだろうと推察し、今後は支援金に対しては、団体では行わないことに決定し、支援は個々で行うとの報告があった。

坂谷常務理事は、意見をまとめ、JSAF の募集する支援金に対しては、推奨はせず、個々の団体に任せることとした。

5. 事故報告の義務化について：坂谷常務理事

坂谷常務理事より、WS 規定に定められたことを受けて、JSAF でも事故報告体制を構築する方針との説明があった。

これに対し、外洋湘南平井会長から、実際人身事故等が起きた場合は、過失に関係する情報や機微な情報を外部に提供することができないため、義務化は難しいとの意見があった。

6. 日本—パラオ親善レースおよび小笠原レースについて：外洋三崎会長新田肇

新田会長から、神奈川県連との共同主催で、2019年年末から2020年にかけて、横

浜をスタートしてパラオを目指す親善レースを企画したとの報告があった。

16日間前後をかけたのレースで、現在準備中とのこと。

カテゴリー2+パラオ特別規定を用いて運用する。

これに対し、外洋湘南平井会長から、保険をどのようにクリアーするかとの質問があった。これに対し、現在調べているところとの回答があった。また、事故があった場合の責任についても、法人格がない団体が主催・共同主催する場合、個々の団体の役員へ責任が及ぶ可能性があることについて言及された。

新田会長から、引き続いて小笠原レースを2019年GW開催するとの報告があった。参加艇に関しては調整中。

7. 2018 太湖 Long Distance Sailing Regatta、そのほかについて：中澤副会長

キールボート担当理事である中沢副会長から、太湖レースの募集について説明があった。そのほかの活動については報告書の通り。

8. 外洋専門委員会報告

① 外洋計測委員会：八木委員長

古いIRCレーティング等を使用してレースを行っているのを多々目にするが、古いレーティングは使用せず、有効なレーティングで運用して欲しい。

また、JSAFのメインレーティングはIRCであり、他のレーティングを併用する場合は、デュアルスコアリングで行って欲しい。

② 2018 世界選手権報告 外洋計測委員会 ORC 委員会：吉田委員長

例年ORCでの大会であったが、本年はORCとIRCを採用してオランダハーグで開催された。報告内容は資料の通りだが、運営に参加して、多くの有意義な時間を過ごすことができた。

来年はまた、ORC単独での開催がクロアチアで予定されているが、今回の評価が今後WSで行われることになる。

③ ルール委員会外洋規則小委員会：大村委員長

1) ルールブックが電子化され、販売を始めた。

2) 外洋系セーラー向けの講習会を予定している。

9. その他

・外洋玄海沼田会長より、来年アリランレース復活の紹介と参加依頼があった。

スタートは5月1日、コースは福岡から釜山。

・平松理事より来年の全日本ミドルボート選手権は関東で開催する旨紹介があった。

・中澤副会長より東京2020ボランティアについての協力依頼があった。受け付けは12月までとのこと。

10. 外洋艇及び外洋系セーラーの現状認識と今後の方向性について

馬場副会長から、外洋艇、クルー会員が高齢化し、このままでは先細り、衰退し、いずれ消滅するのではないかと危惧している、対策を検討する必要があるとの話があった。これに対し、以下のような意見があった。

猪上：外洋組織はなくなる。ディンギーあがりの学生がクルーザーに来ないのはなぜか
作田：外洋会員条件、会員登録も艇登録も安価に流れる
鈴木：会員の年齢分布を調査した。相模湾ではレースが多数あるが会員以外が多く参加している。JSAF 会員減少を危惧している。実態調査をして分析が必要。
平井：世界的に高齢化している。人口が減少していくなかでレース組織を維持していくためには加盟団体が元気であることが大事。その為には、加盟団体がきちんと収入を管理することも重要。
猪上：ヒトモノカネが大事である。収益を確保して若い人材を登用すること、人を融通するなど全国で考える
沼田：玄海ではジュニアからクルーザーまでの流れは確保されている。若い人がどんどん船に来るようになると良い。
現在は九州大学が中心的に動いている。
中里：外洋クラス協会として組織するのも一つの方法。タモリカップから拾い上げるなども一つの方法。
市来：鹿児島国体で南九州会員は70名に減少した。新規オーナーが増えない。
小金持ちへのアプローチを考える。オーナーを作る。船を買ってもらって、クルーを付けて勝たせて味あわせるのも一つの方法。
妹尾：ヨット数は増加している。現在でもあこがれを持っている。スタイルを考える。
いろいろ長くやってきた。スタイルを変える必要があるのでは。タモリカップから学ぶこともある。
八木：100艇参加のオープンレースは①会員を縛る、②艇登録して簡易レーティング PHRF を与える。
新田：JSAF 艇登録をすることのハードルが高い。安全は自己責任である。
以上、いろいろな意見があったが、坂谷常務理事から、いったん各団体持ち帰り、1月の団体長会議に具体案を持ち寄り、再度検討することとしたいとした。

以上

2018年 12月 5日

議事録署名人： 平 松 隆

平 井 昭 光